

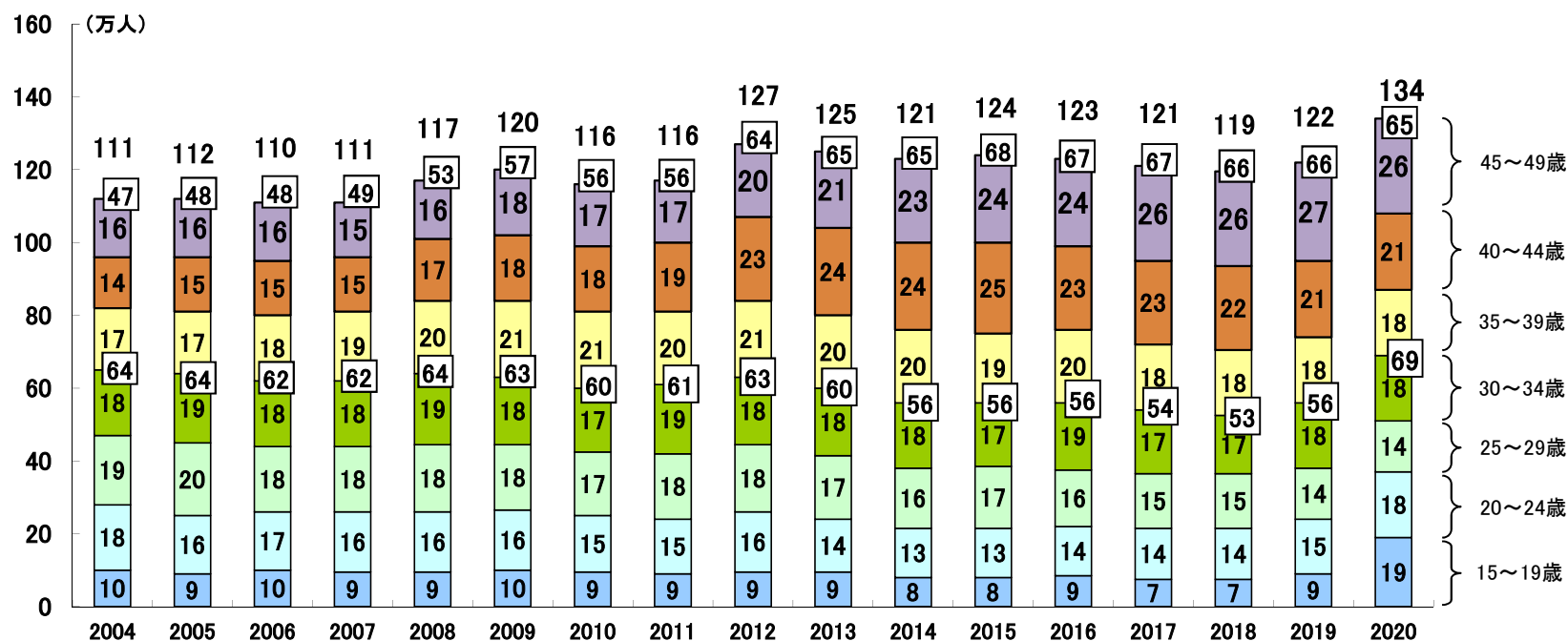
# 地域若者サポートステーション事業



和歌山労働局職業安定部訓練室

## 無業者(15~49歳)数の推移

- 15~49歳の無業者の数は、110~130万人程度で推移〔2020年(令和2年)134万人(前年比13万人増)〕。
- 現時点で就職氷河期世代に概ね相当する35~49歳の無業者の数は、65万人程度。



(資料出所) 総務省統計局「労働力調査」

(注1) 「ニート」の定義は、15~34歳で、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者。これと同定義で35歳~49歳までの無業者数を把握したものの。

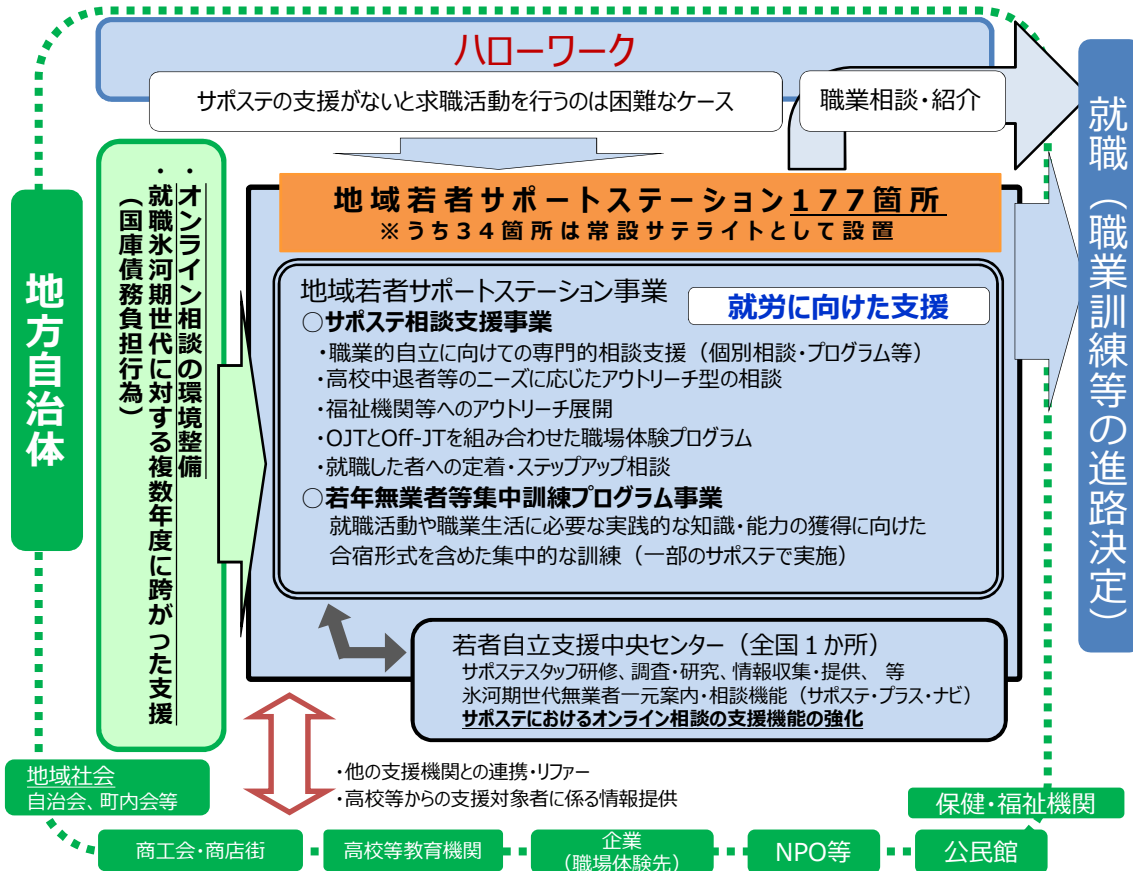
(注2) 統計処理の関係上、年齢区分毎の数値とその合計数が一致しないことがあり得るもの。

(注3) 2011年(平成23年)調査結果は東日本大震災の影響により岩手県、宮城県、福島県を除く。

(注4) 2017年(平成29年)1月結果からは、算出の基礎となるベンチマーク人口を、2010年国勢調査結果を基準とする推計人口(旧基準)から2015年国勢調査結果を基準とする推計人口(新基準)に切り替えた。これに伴い2010年(平成22年)から2016年(平成28年)までの数値については、新基準のベンチマーク人口に基づいて遡及又は補正した時系列接続用数値に置き換えて掲載した。

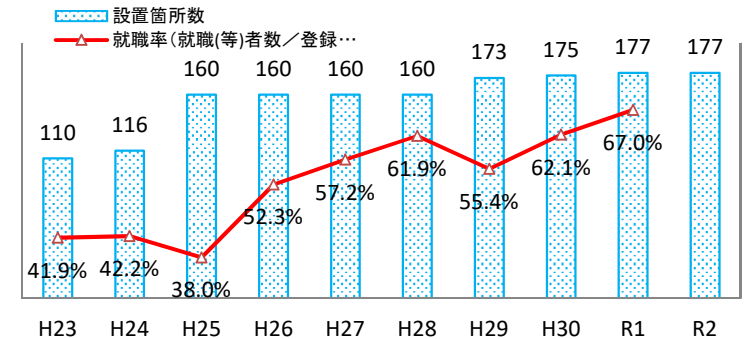
- 若者の数が減少する一方で、若年無業者（ニート）※1の数は50～60万人台で推移しており、いわゆる氷河期世代を含めた無業者の数は約130万人に達している。
- これらの者の就労を支援することは、若者等の可能性を広げるだけでなく、将来生活保護に陥るリスクを未然に防止し、経済的に自立させ、地域社会の支え手とするとともに、我が国の産業の担い手を育てるために重要である。
- そのため、若年無業者等が充実した職業生活を送り、我が国の将来を支える人材となるよう「**地域若者サポートステーション**」（※2）において、地方自治体と協働し（※3）、職業的自立に向けた専門的相談支援、高等学校・福祉機関等へのアウトリーチ相談、就職後の定着・ステップアップ支援、若年無業者等集中訓練プログラム等を実施する。
- 令和3年度は、就職氷河期世代の方々の着実な就職等の実現を強力に支援するため、**対象者の個別ニーズに対応した支援メニューを複数年度に跨がって一体的に提供するとともに、オンラインによる相談支援を促進する。**

（※1 15～34歳で、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者 ※2 H18年度～。若者支援の実績・ノウハウのあるNPO法人等 実施。15～49歳対象 ※3 地方自治体から予算措置等）



【サポステの実績】

進路決定者数(人)	うち就職等者数(人)	登録者数(人)	就職等率(%)	総利用件数(件)	相談件数(件)	セミナー等参加者数(人)



\* 平成27年度より、「就職者」について雇用保険被保険者になり得る就職者に限定、さらに平成29年度より、雇用保険被保険者であることを書類により確認できる場合に限定  
 \* 平成30年度より、「就職等」とし、雇用保険被保険者となることが見込まれる就職及び公的職業訓練スキームへの移行も含めて評価

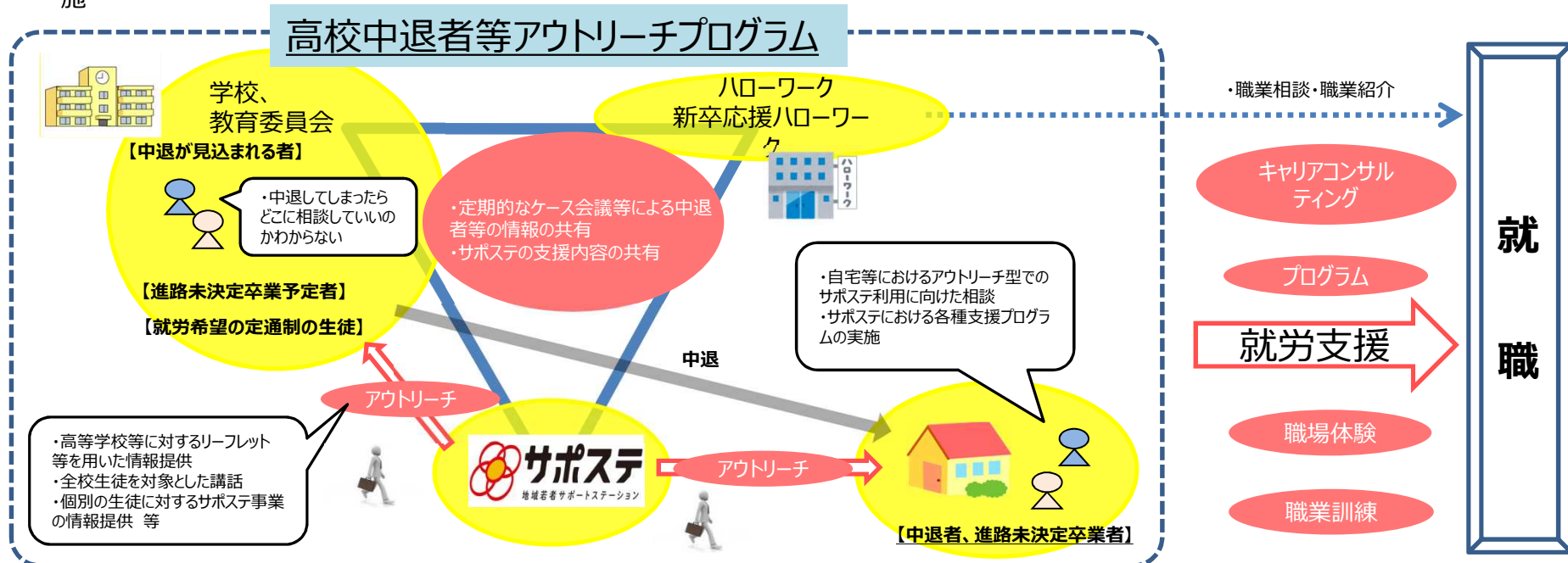
# 地域若者サポートステーション事業 – アウトリーチプログラム

- 高等学校在学者数は減少傾向にあるものの、高等学校中退者の数は年間 4 万人（令和元年度）を超えており、若年無業者の数についても50～60万人で推移している。こうした若者への切れ目ない支援を行うことは、若者の可能性を広げるだけでなく、経済的に自立させ、地域社会の支え手とするともに、我が国の産業の担い手を育てるために重要な課題である。
- これらの課題に対応するため、中退者等の希望に応じて、地域若者サポートステーション職員が学校や自宅等へ訪問するアウトリーチ型の就労支援を実施。  
「高校・高等専修学校とサポステ等の連携による中退者・若年無業者の若者等へのアウトリーチ型等の就労支援を実施。」ニッポン一億総活躍プラン（平成28年6月2日閣議決定）
- 加えて、就労を希望する定時制・通信制の生徒、高校が把握した高卒就職早期離職者、新卒応援ハローワークが把握した無業リスクの高い大学中退者及び未就職卒業者等に対しても、本スキームを活用した効果的なアプローチを行う。

## ◆ サポステと学校等との連携による中退者等支援（学校教育からの「切れ目ない支援」）

- 高校等に対するサポステの支援内容の詳細な情報提供
- 高校・ハローワーク等の関係機関との定期的な会議を通じた、就労を希望する中退者等の支援対象者の把握、支援内容の検討
- 中退の可能性が明確化した者の希望に応じた、高校等に出向いてサポステの紹介・説明、中退後の登録・支援開始
- 中退者、進路未決定卒業者及び進路未決定卒業予定者の希望に応じた、高校や自宅等へ訪問するアウトリーチ型の相談等の決め細かい支援を実施

施



# 地域若者サポートステーション事業 – 職場体験プログラム

- 地域の産業界の協力の下、就労の後押し及び若者が産業の将来の担い手となる第一歩を踏み出すための職場体験プログラムを実施
- 具体的には、人材不足の業種・職種、また、実際にハローワークに求人が出ている事業所及び同業種の事業所を中心に、サポステ利用者の個々のニーズに応じて、OJTとoff-JTを組み合わせた職場体験プログラム実施企業を開拓
- 体験期間終了後は、体験先企業や関連企業での雇用形態での就業への移行・定着を促進するための相談支援及び体験先企業への働きかけ等を実施

対象者：サポステの支援を受けている者

相談支援を受け、短期の職場見学等を経て、一定程度自信を回復し、同一事業所での本格的な職場体験を行えるレベルに至った者。

⇒ 1週間程度から最大3か月程度の職場体験プログラムを行うことで、実践的なスキル習得、職場環境への適合、ひいては就職体験先企業又は関連企業への就職及び職場定着が期待できる。

継続して働けるか  
チャレンジ

求人ニーズの高い仕事に  
チャレンジ（マッチング）

受入先の事業主の負担軽減

## – 職場体験プログラム –

- 人材不足分野等における職場体験プログラム（OJTとoff-JT（※）の組み合わせ）  
※ 安全確認、顧客対応上最低限遵守すべき事項等のオリエンテーション
- 1週間程度～最大3か月程度
  - ・連続した職場体験を実施（これまでの職場見学等は1～数日程度）
  - ・職場体験期間中は就労ではないので無償
- 体験開始前、体験中、体験後の振り返りなどサポステ利用者と事業主をフォロー
- 体験を受入れた事業主のプログラム実施経費に相当するものとして、体験受入謝金（最大6万円/月）を支給



事業所に毎日かよえるかな？

介護って？  
建設業でもパソコンって使うの？  
販売でも事務仕事がある？

1～数日ならがんばれるが、同じ事業所で同じ人とうまくやっていける？

・体験期間終了後、体験先企業や関連企業等での雇用契約による就業に移行できるよう支援・企業への働きかけを実施。

・就職後も、定着・ステップアッププログラムによる継続した支援を実施。

サポステ

ハローワーク

・連携

就職

・職業相談・  
職業紹介

## 事業概要

無業状態にある若者に対し、合宿形式を含む短期集中的な職場体験・職場実習（OJT訓練）・資格取得等の訓練を実施、自信回復、就職に必要な基礎的能力獲得、基礎的資格の取得等を図り、就労を強力に支援する。

## 対象者

若年無業者等であって、生活面、メンタル面等のサポートが必要である一方、基礎的能力を付与した場合に、一定以上の職業能力の発揮が期待できると地域若者サポートステーションのキャリアコンサルタントに判断された者

## 若年無業者等集中訓練プログラム事業

- **合宿形式**を含むカリキュラムを組み合わせ実施。
- 2週間～最大6ヶ月
- 集団生活・活動による相乗効果
- 生活面、メンタル面等のサポートと、一人一人の状態に合わせた集中訓練。
  - ①グループワーク、コミュニケーション訓練
  - ②職場体験、職場実習（OJT訓練を含む）
  - ③資格取得講座等の受講
  - ④就職活動の基礎知識講習
  - ⑤履歴書の添削・模擬面接 など

基礎的  
能力獲得

課題  
克服



事業費  
(受講生1人あたり月  
10万円まで)

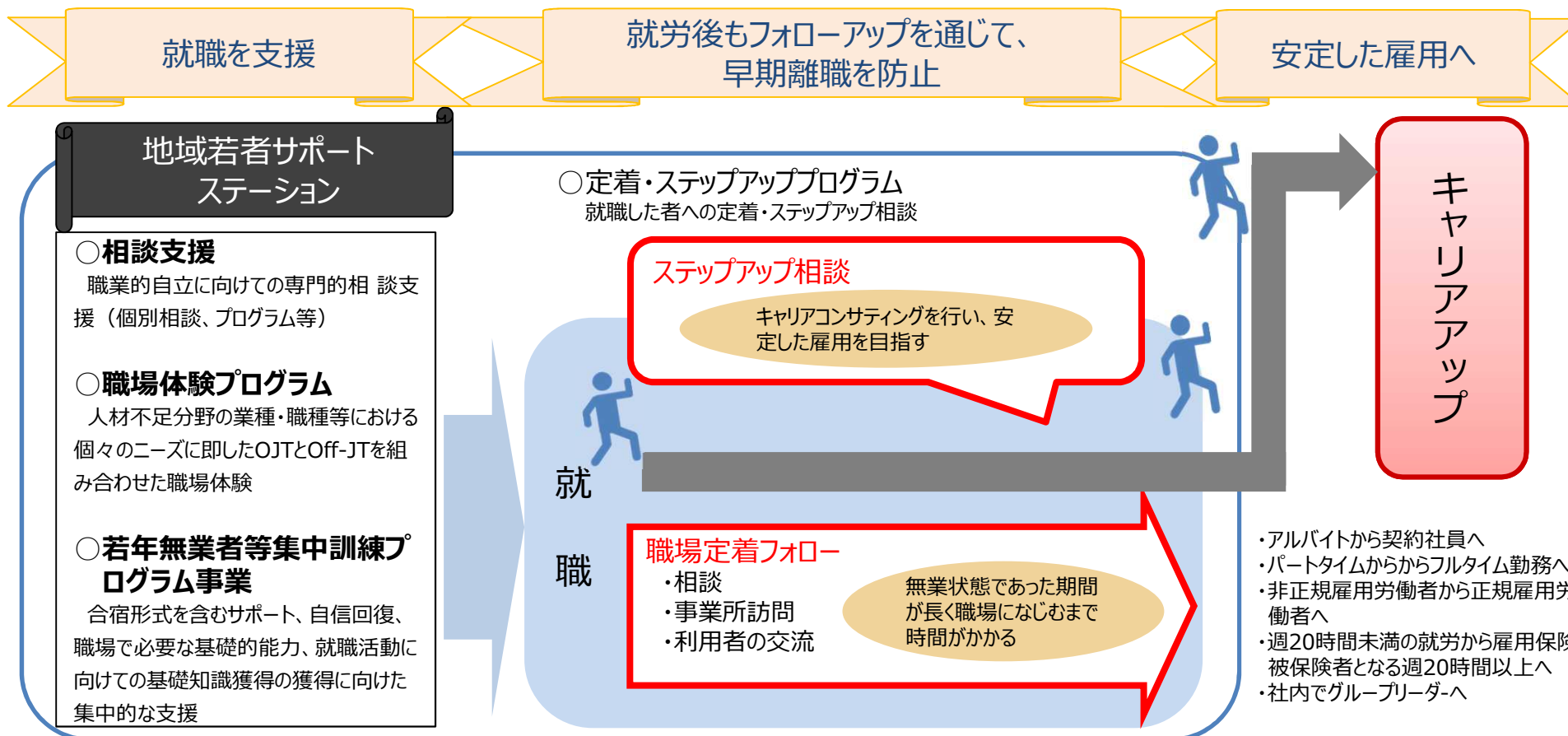
## ハローワークとサポステの連携による就職支援

- プログラム修了後6か月以内の就職を目指し、月1回以上の就職活動（求人への応募）を必須化。
- ハローワークでの就職活動に際し、サポステ職員によるハローワークへの同行訪問を強化。

**就 職**

・就職後も、定着・ステップアッププログラムによる継続した支援を実施。

- 無業の若者の就労を支援する「地域若者サポートステーション」(通称：サポステ) の支援を受けて就職した者に、就労後の職場定着のためのフォロー等を実施するほか、より安定した就職機会にキャリアアップできるように、ステップアップに向けた支援を実施。





ご閲覧いただきありがとうございました。